

平成19年度現地研修会の開催

REPORT ⑤

1 はじめに

当機構の現地研修会は、賛助会員による道路等に関連する事業の現場見学を目的として、平成元年より継続して実施しています。今回は、総勢32名の研修会となりました。11月1日(木)、2日(金)に沖縄本島において、那覇港臨港道路建設現場や喜舎場バスストップ・スマートインターなどを見学しました。研修会の行程は、以下のとおりです。

(1日目)

那覇空港集合→那覇新都心→那覇港臨港道路→沖縄自動車道→カヌチャリゾート(宿)

(2日目)

カヌチャ(宿)→沖縄自動車道→喜舎場BS・IC、アワセゴルフ場再開発(北中城村役場)→普天間飛行場→国道58号→那覇空港解散

2 那覇新都心

那覇新都心は、那覇市の北部に位置し、主に米軍に接収され米軍住宅、学校等となっていた「牧港住宅地区」跡地を那覇の行政・商業・文化の中核とすべく、都市再生機構が土地区画整理事業により開発したものです。平成4年に工事着手し各種施設の立地が進められ、平成13年以降順次施設の供用が

開始されています。沖縄都市モノレールが平成15年に開通し那覇空港まで20分となり、ますます便利になっています。新都心の南部にある安里配水地という高台に登り、事業地を一望しながら事業の概要を説明していただきました。

3 臨港道路空港線

那覇港臨港道路空港線は、那覇港と那覇空港、本島南部との連絡強化を図るため、那覇ふ頭湾口部を海底トンネルで横断し、波の上地区と空港を直接結びつける道路です。また同路線は、那覇空港から宜野湾、北谷まで連続する西海岸道路の一部として計画され、現在慢性的な渋滞となっている国道58号のバイパスとしても期待されています。

臨港道路空港線は、那覇ふ頭の海底を長さ約90メートル、幅員37メートルの8つの沈埋函で連結する長さ724メートル、上下各3車線の自動車専用トンネルです。見学当時、第6番目のブロックの埋設が終了しており、三重城側の立坑から地下5階まで降り、沈埋函の最先端まで見学することができました。(写真：沈埋函内部)

4 喜舎場スマートIC・アワセゴルフ場再開発

沖縄初のスマートインターチェンジである喜舎場スマートICは、沖縄自動車道北中城IC・沖縄南IC間の喜舎場バスストップに上り線入り口のみ1/4インターとして設置されました。喜舎場スマートICの設置によって、沖縄自動車道の利用促進と北中城IC周辺道路の混雑緩和が期待されています。本年10月に本格運用が開始されました。

アワセゴルフ場は、米軍のゴルフ場であったところ、平成8年に返還合意されています。これまでに複合型商業交流施設ゾーンなどを含む跡地利用計画を作成されていますが、今後まちづくりの実現に向けた取り組みが進められることとなります。

喜舎場スマートICの隣にある北中城村役場において、喜舎場スマートICやアワセゴルフ場跡地利用の概要と整備効果などについて説明していただいた後、スマートICの現場を見学しました。

5 普天間飛行場

普天間飛行場は、昭和20年に米軍に接収されて以降アメリカ海兵隊の飛行場として使用されており、現在は主に

ヘリコプターの基地となっています。平成8年に全面返還が合意され、平成18年には普天間飛行場跡地利用基本方針が策定されていますが、移設先について難航していることは、新聞報道等で既にご存じのことと思います。普天間飛行場の面積は約481haであり、普天間市の中央に位置し、人口の密集した既成市街地に囲まれ、騒音・振動・安全・交通阻害その他市民生活に大きな影響を与えています。

普天間飛行場に隣接し、太平洋戦争の沖縄戦で最大の激戦地となった嘉数（かかず）高台に登り、普天間飛行場及び周りの市街地の状況などを見学し、跡地利用計画について説明をしていただきました。

